



特別企画

災害に強い医療を実現する BCPにおけるIT

医療を止めない、止まらない医療情報システムに向けて

2011年の東日本大震災以降、医療の分野においてもBCP (Business Continuity Plan: 事業継続計画) が策定されるようになってきた。最近では、BCPを基に全国各地の地域医療ネットワークや医療機関で災害に備えたシステムの構築が進んでいる。そこで、特別企画では、BCPに取り組む医療機関の最新事例を取り上げる。



特別企画

災害に強い医療を実現する
BCPにおけるIT

Overview 災害に負けないためのIT

災害に負けないための 医療IT-BCP

はじめに

「天災は忘れたころにやってくる」という言葉はよく言われてきた言葉である。この言葉は寺田寅彦が初めて言い出したと言われているが、寺田寅彦が初めて言ったかどうかは定かではない。しかし、彼の随筆などによく出てくる言葉ではある。寺田寅彦は関東大震災に際して、1923 (大正12) 年9月29日付けでドイツに滞在していた小宮豊隆〔友人であり、「寺田寅彦随筆集」(岩波書店)の編集者〕に宛てた手紙の中では、「調査の必要から昔の徳川時代の大震

火災の記録を調べているが、今度われわれがなめたのと同じような経験を昔の人が疾になめ尽くしている。それを忘却してしまって勝手なまねをしていたためにこんなことになったと思う」〔松本哉「寺田寅彦は忘れた頃にやって来る」(集英社新書)〕と述べている。

東日本大震災でも過去に東北地方に大地震が起き、大きな津波が起こったことがあり、津波塚が設定されていたという。いつしか、この塚のことは忘れ去られ、海辺にどンドン人々が住むようになり、今回のように多くの人命が失われたとも言える。



宮本 正喜

兵庫医科大学 情報センター

(みやもと まさき)
1974年大阪大学工学部卒業、1984年神戸大学医学部卒業。同大学医学部附属病院第二内科助手、医療情報部副部長などを経て、2002年に兵庫医科大学教授(医療情報学)に就任。2010年から同大学主任教授、情報センター長。日本医療情報学会理事・副会長などを務める。主な著書に「医療情報・医学医療編」(篠原出版新社)、「DPCと病院マネージメント」(じほう)、「大震災における救急災害医療」(へるす出版)など。



平松 治彦

兵庫医科大学 情報センター

(ひらまつ はるひこ)
1994年神戸大学工学部卒業。2006年神戸大学大学院自然科学研究科修了。博士(工学)。神戸大学総合情報処理センター助手、同大学大学院経営学研究科助手を経て、2002年に兵庫医科大学講師(医療情報学)。2011年から同大学情報センター副センター長となり現在に至る。